

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月24日、3月9日実施)	総合評価(3月13日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の進路実現に向けた教育課程を編成するとともに基礎学力の定着と発展的な学力の伸長を図る。</p> <p>②多様な学習機会や学習形態を提供し、看護・医療・社会福祉の専門教育の充実と共に将来の職に求められる教養を身につけていく。</p>	<p>①基礎学力の定着と発展的な学力の深化及び伸長を図る。</p> <p>②専門分野の更なる深化と学んだ知識や技能を実践する力を育成する。</p>	<p>①生徒のニーズに応じた通常補習、週末課題等を実施し、学習習慣の確立や学習意欲の喚起に繋げる。</p> <p>①入学時の生徒の学習状況を把握し教科指導に生かす。</p> <p>①ICTの利活用により、生徒一人ひとりの学習の進捗に合わせた学習環境の整備を図るとともに、発展的な学力の伸長もサポートする。</p> <p>②高大連携により専門分野の学習のより一層の充実を図る。</p>	<p>①補習への参加者数が増加したか。</p> <p>①模擬試験等の結果を分析し、生徒の成績向上に寄与しているか。</p> <p>①入試結果検討会で入試結果を分析し、教科の指導に生かされたか。</p> <p>①ICT利活用の生徒アンケートを実施し、生徒の学習意欲や学習に対する意識の変化を確認する。</p> <p>②高大連携による事業を拡大できたか。</p> <p>②生徒アンケートを実施し、校内外における実習等で実践力がどれだけ身についたか検証する。</p>	<p>①補習はほぼ例年と同様の実施状況であった。週末課題は各学年ともきちんと実施し、一定の成果をあげた。</p> <p>①6月と9月に基礎力診断テスト結果報告会を実施し、生徒の状況把握を効果的に行うことができた。</p> <p>①4月に入試結果検討会を実施。各教科担当が生徒の状況の分析した。</p> <p>①週に一日ICTを利用した学習時間を設け、ほとんどすべての生徒が学習を行った。また、基礎力診断テスト結果とも連携し自分の苦手科目の克服を行った。</p> <p>②校内外の実習には興味・関心を示し、楽しそうに学んでいる。</p> <p>②高大連携による事業の拡大は行えなかった。</p> <p>②未病関連の薬物・がんの講義を行った。</p> <p>②生徒のアンケート結果から、概ね良好な結果を得られた。</p>	<p>①学力差のある生徒の補習をどのように効果的に実施していくかを考えながら、補習の形態を考えていく。</p> <p>①今後も生徒の状況把握のために報告会を継続し、その結果をどのように活用していくか考える。</p> <p>①生徒が主体的に補習を活用するように生徒の意識を高めていく必要がある。今後、ICTを利用して、日々の学習の記録を習慣化できるようにする。</p> <p>②生徒が、興味・関心を持ち続けるための授業の工夫や生徒との関わりを行う。</p> <p>②学習活動コンソーシアムで各大学が提案する出張講義等リストを活用する。</p>	<p>①学力差のある生徒それぞれに対して学習意欲を引き出そうとする試みは評価できる。今後とも生徒が目的意識をもって学習に取り組める方策の検討を重ねてほしい。</p> <p>①生徒の個別状況把握は今後とも継続するとともに、一人ひとりの生徒に寄り添う姿勢をさらに強めてほしい。</p> <p>①ICTの利活用は今後ますます必要性が増してくるので、更なる活用をしてほしい。</p> <p>②高大連携事業の拡大ができなかった原因を追究し、検討してほしい。</p>	<p>①基礎力診断テスト、入試結果の分析を踏まえ、生徒のニーズを把握し、補習、週末課題、ICTを利用した学習等、学習習慣をつけさせるための働きかけに対して、多くの生徒は努力して応えており、学習に向かう姿勢はできている。今後、これらのデータを連携させるとともに、生徒が自ら主体的に学ぶ意欲をかきたてる指導を考える。</p> <p>①ICTを利用した学習アプリを活用し、自分の不得意分野の把握やその対処を主体的にできるように校内環境を整える。また、主体的に行った学習の記録を行い、学習の振り返りを行わせる。</p> <p>①生徒が主体的に学ぶための授業改善を今後も継続して研究する。</p>	
2 生徒指導 ・支援	<p>①生徒の規範意識を高め、他者との協調性や自律する心を養う。</p> <p>②いじめ防止基本方針を実施して校内の安全を保つ。</p>	<p>①生徒情報を共有し、校内の支援体制の充実を図り、教育相談体制を充実させる。</p> <p>外部機関と連携が必要な場合は、速やかに連携を取れる体制を作る。</p> <p>②いじめ防止基本方針を実施する。</p>	<p>①生徒情報交換会において、情報の共有が図れたか。</p> <p>スクールカウンセラーの相談回数の把握</p> <p>②全校での集会に場等で、いじめに対する学校側の毅然とした姿勢を説明し、周知を図る。</p> <p>いじめ防止アンケートを実施し、生徒の実状を把握する。</p>	<p>①生徒情報交換会の回数及びスクールカウンセラーの相談回数を把握する。</p> <p>②いじめの事案は防止できたか。</p> <p>アンケートより把握できる内容を共有できたか。</p>	<p>①風紀委員会は年間3回、小学校、自治会、施設で「万引き防止」「振込防止」をテーマとした寸劇を行った。また、図書委員会は、三ツ境養護学校へ2回、病院の読み聞かせを1回、実施した。</p> <p>②いじめ防止アンケートを実施し、行内の状況を把握し、未然防止に向けて職員の間で共通理解を図った。</p>	<p>①地域との連携は、委員会、部活で進んでいるが、学校全体での運動になっていない。今後は、発表の成果などを、校内で発表する機会を持つなど、還元する必要があるように思われる。</p> <p>②いじめの未然防止に向けて、どのようにきめ細かく状況把握していくか検討し、養護教諭やSCと連携していく。</p>	<p>①地域連携をどのように学校全体の活動としていくか学校運営協議会に引き継ぎ、意見を求めてほしい。</p> <p>①今後も生徒主体の活動を進めてほしい。</p> <p>②いじめの防止は難しい側面もあるが、今後とも未然防止に向けて活動を進めてほしい。</p>	<p>①生徒情報交換会は年度3回実施。スクールカウンセラーの相談件数は37件。今年度新設の教育相談チームが、外部機関との連携を活用した。</p> <p>②年二回のアンケートを行い実態把握に努めた。実施後各クラスで面談を通して問題解決を図った。生徒からの聞き取りが難しい面もあり、把握困難な場合も多い。</p> <p>①外部との連携や、地域との連携は、継続性が重要と思われる。外部からの情報やアイデアをより有効活用する必要がある。外部での活動も、その成果を還元できる場の設定を考えていきたい。</p> <p>②アンケートだけでなく、より日常の学校生活での観察や情報収集、問題共有が必要である。小さい事でも見逃さないように学校全体で取り組んでいく。</p>	

3	進路指導・支援	<p>①看護・医療・社会福祉などのヒューマンサービスに従事する人材を育成する。</p> <p>②「看護の心」「福祉の心」を培う教育活動を推進する。</p>	<p>①キャリア意識を喚起し、学力の向上につながる取組を充実させる。</p> <p>①進路のモデルを見つけ、進路の方向性を確実にさせる。</p>	<p>①進路の情報を収集し選択をサポートできるように、模擬試験の機会を増やし、積極的な受験を促す。</p> <p>①授業、模擬試験、夏季講座等を活用し、小論文のトレーニングに取り組みさせる。</p> <p>①卒業生による進路相談を更に充実させ、学習の方法や進路選択の考え方の理解や進路への意識づけを図る。</p>	<p>①模擬試験の受験者が増えたか。データが活用できたか。</p> <p>①小論文についての講座や模擬試験を積極的に利用したか。</p> <p>①卒業生による進路相談により、進路選択の意識づけができたか。</p>	<p>①2学年全員が模擬試験を受験した。各自の実力を把握し、進路選択の手がかりとすることができた。</p> <p>東京アカデミー模擬試験受験者（3年のみ）2回のべ45名、新宿セミナー模擬試験受験者（3年のみ）4回のべ35名、毎年度徐々に増加し、結果を進路選択に活用することができた。</p> <p>①小論文模試2回の受験者のべ150名（3年80名）、夏季休暇中の小論文、面接講座受講者3日間のべ187名（3年のみ）。推薦による受験を考える生徒に受講を促し、学習内容を活用させることができた。</p> <p>①卒業生による進路相談会は、生徒、保護者ともに満足度が高く、進路について考えるきっかけと意識づけに大いに役立った。</p>	<p>①積極的に模擬試験を活用しようと考える生徒が増えている。様々な分野に対応できる模擬試験の活用を考えたい。</p> <p>①小論文模試の受験者は昨年度よりも増加している。受験形態を意識した進路指導を行っている成果と考えたい。</p> <p>①就職希望者に向けての情報提供を積極的に行い、生徒の自主的な就職活動につながった。次年度以降も工夫を重ねたい。</p>	<p>①卒業生による進路相談会は効果が期待できる。今後さらに進路支援において効果的な相談会の在り方を模索してほしい。</p> <p>①積極的な模擬試験の活用について、さらに検討して行ってほしい。</p> <p>①生徒一人ひとりの可能性に寄り添った指導をしてほしい。</p>	<p>①生徒が主体的に進路について考える機会をさらに増やしていく必要がある。</p> <p>①模擬試験は一定数実施してきたが、その結果をどのように活用するかという点ではまだ課題が残っている。</p>	<p>①進路についての関心を高め、意識づけできるように、これまで以上に模擬試験を活用させたい。</p> <p>また、ガイダンスや模擬授業の内容を充実させることで、意識を高めたい。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域の期待に応えられる学校づくりを進める。</p> <p>②地域と連携した防災体制の整備を具体化し、社会参画の意識を高める。</p>	<p>①地域と連携し、生徒の委員会活動・クラブ活動の発表の場を活性化させる。</p> <p>②地域と連携した防災活動を実施する。</p>	<p>①風紀委員会により防犯講演会、図書委員会による三ツ境養護学校での読み聞かせなどの交流の活性化を図る。また、地域の病院などと連携を図り部活動の発表の場としての交流を深める。</p> <p>②7県機関との防災研修の充実や地域の自治会の防災訓練との連携を進めていく。</p> <p>②DIGを授業に取り入れていく。</p>	<p>①それぞれの施設で生徒が主体的に活動が行われているか、また、発表などの回数はどうであったか。</p> <p>②防災研修の内容が相互に共有されたか。</p> <p>②生徒の活動状況。</p>	<p>①風紀委員会やJ図書委員会、JRC部やチアダンス部など、多くの委員会や部活動が地域のボランティアや活動に参加し、成果をあげた。</p> <p>①保育福祉のインターシップを近隣のはるかぜ保育園で実施した。</p> <p>②運転試験場のJアラート訓練、今宿ホーム・中尾小学校の防災訓練に参加することで、様々な災害を想定した防災研修について学ぶとともに、地域との連携を図った。</p> <p>②生徒対象のDIGを行い、防災意識を高められた。</p>	<p>①日頃の活動をどのように地域や社会につなげていくことができるかについてさらに検討していく。</p> <p>②地震や火事の防災だけでなく、Jアラート訓練を行う必要性を感じた。</p> <p>②看護・福祉の勉強をしているため、生徒がさらに地域で活用できるための教育が必要である。</p>	<p>①小学校に出向いての保健委員会の寸劇やJRC部の応急処置の講習は有意義な活動である。キャリア教育の視点からも今後このような交流が深まっていくことを望んでいる。</p> <p>①交流が始まったことで、子どもや保護者の学校への理解が深まった。今後さらに地域との交流を活性化して行ってほしい。</p> <p>②Jアラートはこれまでとは違う災害想定なので、マニュアルの整備をする必要がある。</p>	<p>①委員会や部活動を通じて、地域との連携が図れた。</p> <p>②運転試験場のJアラート訓練、今宿ホーム・中尾小学校の防災訓練に参加し近隣施設の防災訓練方法を知ることができた。体験を通じて、自分の身を守るだけでなく、これから看護職や福祉職として働く上での防災の知識となった。</p> <p>②生徒対象のDIGを行い地域で抱える災害の課題に応じた予防や解決方法を考えることができた。</p>	<p>①連携の在り方をさらに地域のニーズに合ったものを模索するとともに、生徒自身が有意義な活動ができるように工夫していく。</p> <p>②近隣の施設の防災訓練に積極的に参加していく。</p> <p>②Jアラート訓練を実施して、地震や火災とは違った訓練を体験する。</p> <p>③DIGを実施し、災害をイメージすることで防災の行動がとれるようになる。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①学校の特色のPRの充実を図る。</p> <p>②情報管理を徹底し校務処理の情報化を進め事故・不祥事の根絶を図るとともに、改修工事中の生徒の安全、安心な学校生活の確保に努め、円滑な学校教育の推進を図る。</p>	<p>①学校の特色がよく伝わるHPを作成する。</p> <p>②改修工事中の生徒の安全、安心な学校生活の確保に努め、円滑な学校教育の推進を図る。</p> <p>②情報管理を含め、事故・不祥事の根絶を図る。</p> <p>③改修工事中の生徒の安全、安心な学校生活の確保に努める。</p>	<p>①原稿作成を組織的・効率的に行う。また、内容の見直し、整理を行う。</p> <p>①生徒主体の学校説明会を実施する。</p> <p>②仮設校舎の環境改善のためにグリーンカーテンを育てる。</p> <p>②事故防止会議を活用して職員の情報管理意識を高める。</p> <p>③部活動安全点検を実施し、生徒の活動状況を把握するとともに、危険箇所の掌握に努める。</p>	<p>①HPの更新回数と内容は充実しているか。</p> <p>①学校説明会での生徒の活動状況。</p> <p>②生徒と教職員が安全に教育活動を展開できるか。</p> <p>②職員アンケートを実施し意識の変化を検証する。</p> <p>②部活動安全点検の実施結果をもとに、改善点を生徒・職員に周知する。危険箇所についても同様に生徒・職員に周知を図る。</p>	<p>①HPは担当者が写真・文章を考え頻回に更新を行ったため、閲覧者が増えた。</p> <p>①生徒主体で学校説明会を行え、本校の特色の発信の場となった。</p> <p>①部活動顧問の協力を得て、部活動体験を行い好評であった。</p> <p>②プレハブ校舎のグリーンカーテンはできなかったが、他の方法で環境整備を行った。</p>	<p>①HPの更新は教員補助の協力によるが、来年度も継続できるか不明である。</p> <p>①学校説明会のお知らせを送付後、直前に再度FAXで中学にお知らせをしたが、かなり効果があり、来年度も行う。</p> <p>①分掌の枠を超えての協力は、無理のないように行う。</p> <p>②グリーンカーテンは夏の暑さに対応不可能。</p>	<p>①HPはよく更新されており、評価される。</p> <p>①生徒主体の学校説明会が実施できてきている。今後小学生にも情報提供できるようにしてみてはどうか。</p>	<p>①ホームページのスピーディな更新と内容の充実が図れた。</p> <p>①生徒主体で学校説明会を行うことができ、参加者からの評価は高かった。</p> <p>①部活動顧問の協力を得て、中学生の部活動体験を行い好評であった。また、本校を理解して頂くことの助けとなり効果的だった。</p> <p>②看護科・福祉科教員が仮実習棟のプレハブにいて、生徒の安全・安心に繋がった。</p>	<p>①ホームページの更新を行える教員補助の確保を行う。</p> <p>①学校説明会直前にFAXで再連絡を中学に行う。</p> <p>①学校説明会後の部活動体験の継続をする。</p> <p>②冷暖房エアコンの効率的な活用をする。</p>

